

問に答ふ

注 水彩畫に關係あるものに限る◎の印は答一般に對して利益なきものは載せず

■夜間講習をなす市内の洋畫研究所の全部所在所及名稱を知りたし(會員の一人)◎下谷區谷中眞島町一番地大平洋畫會研究所、赤坂町溜池町白馬會研究所、本郷區菊坂町菊坂研究所、其他は不明但本會研究所に於ても七月新築落成の上は夜間も開校すべく、場處は小石川區水道端町服部坂下なり

■一 鉛筆畫を習ふに臨本以外參考となる良書ありや 二 鉛筆畫は我流の寫生にて發達し得べきや 三 美術學校本科の入學試験の實技は鉛筆畫なりや又は水彩畫なりや(旭川S生)◎一 三宅氏の墨繪講話のほか知らず、船來書にはあるべし丸善より日録をとりよせ調べられよ 二 専門家の作を參考にして忠實に勉強せば獨習にても進歩すべし 三 本年は木炭畫のみなりし、入學希望者は出來得べくは試験前三四ヶ月間を洋畫研究所に於て練習するを要す

■一 淺井忠氏の中學用水彩畫臨本を見るに其筆遣ひ日本畫に於ける筆勢とも云ふべきものなり。又他の人の臨本にはこの筆勢を見受けず、右の筆勢といふとは水彩畫の價値に大なる影響ありや 二 右淺井氏の如き

臨本によりて筆遣ひを學習するの可否(旭川S生)◎筆勢といふが如きは初學者に要なし、殊更學んで得たる筆勢は價値なし、かゝるとに迷はず自然を眞面目に研究されたし

■水彩畫にては日本畫にて岩石草花等を描く時の如く、其場に從ひて筆遣ひを硬く或は軟くして其物の性質を現はすを手段とするものなりや、又絶對的に色によりて之をなすものなりや(旭川愛讀生)◎『みづる』二十三主觀と客觀を再讀されたし、要は其者の眞を寫し感じを寫す上に於て都合よき方法に從へば可なり

■一 寫眞例題集を見カメラを以て撮影して水彩畫を畫くに効能ありや、又參考となすには如何なる點なりや 二 ワットマン紙の紙の目縦横何れにても使用差支なきや(兵庫MY生)◎一 寫眞家は繪畫を學ぶ必要あれど畫家は必ずしも寫眞の必要を認めず、瞬時に變ゆく雲、水の影、動く人物鳥獸の如き、寫し置きて繪の上に用ゆる事あれど、夫すら鉛筆のスケッチ程の効もなし、但參考として位置濃淡の調子等大に得る處あれど、是とてあまり初學の人には解せざるべし 二 差支なし◎中等教員の文部省檢定試験を受くる資格は中學校卒業者に限るや又は自修中學程度にてもよきや(五〇生)◎中學校及師範校卒業以上 自修者にては資格なし

■一 橋本辻永兩先生の「洋畫一斑」と小林氏の

「水彩畫一斑」の發行所及定價 二 肉筆臨本の紙質は何なるや(春山生)◎水彩畫一斑は日本橋丸善書店發行定價七十錢? 他は未詳 二 ワットマン紙なり

◎石井柏亭山本鼎兩氏の主として編輯せらるる、月刊雜誌『方寸』は其第一號を去月十五日發行せられたり、菊判二倍大八頁の薄き雜誌なれ共、全部六號組にて、所々兩氏の自畫石版自刻木版等挿み、體裁極めて瀟洒に、文字簡潔頗る諷刺に富めり。先頃廢刊せし平日の後身とも見るべきものか、由來此種の雜誌は經營困難にして永續せざるもの多けれども、石井氏は素より營利の目的にあらねば飽迄繼續する決心なりといふ、吾人は茲に新しき思潮を傳ふべく本誌の發刊せられしを祝すと共に『みづる』讀者にとりても有益なる好伴侶を得たるを喜ぶ。

■ 本年夏期講習會の一部を長野縣澁温温泉附近に開催と決し申候 講師は丸山晚霞河合新藏の二氏にして、都合により大下藤次郎氏も出席可致候、講習課目は墨繪、パステル水彩畫、透視畫法等、詳細は規定出來次第進呈致すべくに付、希望者は豫め申込有之度候。